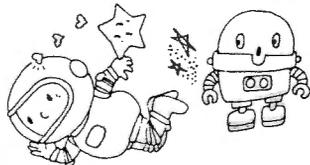




テレパシーと原子



日本GAP会長

久保田八郎

6月14日のテレパシー

仙台支部報に原稿を依頼されながら超多忙のために忘れてしまい、6月14日の夜、UFOコンタクティー用の原稿を猛烈な勢いで書いていたら、ふとこのことを思い出して、ああ、いけない、早く何とかしなくてはと思っていたところ、まもなく笠原君から原稿催促の電話がきたので、アレ、テレパシーで通じたのかな? と意外な感じがした。

このごろはこうしたテレパシー的な現象がよく起こるので、ときどき気味がわるくなるほどだ。しかし他人の観念がスピーカーから可聴音として聞こえてくるようにならねば本当のテレパシーとはいえないだろう。そのような現象は私にはまだ少ない。たいていの場合は内部からわき起こる印象である。

万物の中に万物がある

このテレパシー開発の方法はアダムスキー全集第5巻に詳述してあるから、あらためて説明するほどではないが、基本的には万物一体感を高めることが最重要である。ところが万物一体感と口で言うのは容易だが、このフィーリングを高めるのは実にむづかしい。抽象的な「一体感」というのはあまりにも漠然として、肉眼で見る外界は分離と個別的な存在の世界であり、特

に人間のときき有機体とブリキ製のバケツのような無機質のものとの一体感など起こしようはない。

ところが先日ある方面から非常に有益なアドバイスが与えられた。それはこうだ。つまり、万物は有機質と無機質とを問わず、すべて同じ種類の原子から出来ているので、すなわち万物は一体である。したがってこの三次元空間の中で分離したものはないということを再確認せよという。

こんなことはア氏の著書にイヤというほど書いてある、と思っていたのだが、実はあまり意識していなかったのだ。

考えてみると、人体をはじめ、万物はすべて元素で出来ておりその元素はさまざまのフォームを形成するのに流用されるのであるから、そのことを知覚するならば万物は一体どころか、万

物の中に万物があり、その外には何も無いことになる。言いかえれば、原子のかたまりのミクロの世界で、ある部分は人体となり、ある部分は動植物となり、ある部分は無機物となり、ある部分は空気となる。

したがって、現象の世界とは肉眼で認め得る外形の世界であって、その内部の無数の原子のかたまりまで人間は知覚していないのだ。

海の底——因を意識せよ

海を見るときに海水の表面の奥底に無数の生物が存在することを意識せよとアダムスキーは言っているが、それと同様に、私たちが自分以外の個体を見るときに、その外形の内部に気が遠くなるほどの無数の原子が充満していることを認識するならば、それらを整然と配列させて

いる宇宙の英知まで考えざるを得なくなる。

こうみれば、宇宙の意識・英知の存在と万物一体性を知覚してそのフィーリングを高めるのは決して困難ではない。

要するに原子物理学を導入すればよいのである。ただし、あまり高度に学ぶ必要はない。水素原子2個と酸素原子1個が結合して水となることはだれも知っているが、だれもそれ以上は考えようとしない。そのところを私たちはもっと推理して、この2種類の原子を結合させる「何者か」に気づけばよい。そしてだれもが同じ水という物質を飲んで肉体を維持しているから、すなわち万人間は一体なのである。

この詳細については6月24日の仙台・山形合同支部大会で話すつもりである。再度言うと、原子の存在に着目するのだ。

大会と私 (4) 山形県 柴田文子

ました。

その後総会をはじめとしていろいろな大会に参加させて頂くことができました。それらの体験を通して私は数多くのことを学ぶことができました。お互い協力し合うことの大切さ。信念を持つことの重要性。奉仕の精神の美しさ…。できる限り多くの支部大会に参加し、より多くのGAP会員の方々とフィーリングを交換し合うのはとても

意味のあることだと思います。人間が成長するうえで他人は絶対に必要なのではないのでしょうか。

久保田先生をはじめGAPのすばらしい方々と一緒に活動できることは私にとって大いなる喜びです。そしてアダムスキー哲学は人生における何物にもかえがたい光り輝く宝石です。私はこの宝石を生産決して手放すことなく自分の一部として守って行きたいと思っています。

(完)

草原スペシャル 恐怖

笠原弘可

高級百貨店の恐怖

根が真面目なものだからよく緊張する。私が真面目というのに語弊があるなら、気が小さいからと言いつくそう。

突き詰めて言えば、緊張感というのはやはり恐怖心の産物だと思ふ。「社長の前で緊張した」というのは(もし、失礼な言動をとって、社長の機嫌を損ねたらどうしよう)という恐怖心からである。スポーツ選手の場合、試合前に極端に緊張する。

(負けたらどうしよう。格好悪い、笑われる…)

緊張という二字はどこまでも付いて回る。私などは、デパートで買い物するのでさえ緊張する。特に、高級百貨店は緊張の度合いが大きい。高級と言われる所程、必ず店員が寄ってくる。とても買えそうにない物とて、見るはタダとばかり、見直し、時々触ったりして、いつかきの愉悦に浸っていると、「これなど如何なものでしょう。お客様にピッタリと存じます」と、洗練された物腰で話し掛けてくる。値札を見れば、十数万円のスポーツである。その時の私の姿と言え、4,300円を3,000円に値切ったスラックスと、千円均

一セールで我先に争って買ったポロシャツを着ているのだ。おまけにスタイルは原日本人的である。どこから、十数万のスポーツが似合いそうに見えるのか、もしかして、この店員は、私の高貴な精神を読みとって高いものを勧めるのかと、やや気をよくしたり、一瞬する。が、どこかの高級店に行っても、同じことを言われるなどという記憶に、ハッと我に帰ると、にわかに緊張してしまうのである。(もし、うまく断れないで買わされたらどうしよう……、妙な断り方をして店員さんの気分を悪くさせたらどうしよう) 私の場合、後者はほとんどなく、前者が多い。つまり見栄を張らんがための緊張である。見栄も裏返しの恐怖心だ。

その他、日常生活の中で緊張することを列記すればキリがない。

しかし、100%といかないまでも、緊張する回数を減らし、体中の細胞に生気が駆け巡るようにしたいと考えるのはGAP会員ばかりではないだろう。現代は、ストレスという言葉で、この緊張が人体に如何に多大な悪影響を及ぼすかという医学的研究が進んでいる。心身症などと

いう言葉も、ここ最近、ひん繁に使われている。

やはりリラックスが基本

リラックスが、人間の健康、意識の発現のために如何に重要かを力説したのがアダムスキーである。

いわゆる、人間が本来持つテレパシー能力についても、アダムスキー氏は、リラックスがまず基本だと教えている。超能力の開発には様々な方法が伝えられる。代表的なものにヨガのチャクラ開発法がある。確かに、この方法により能力を開発した人もいるだろう。しかし、それは余程良い指導者に恵まれたことだと私は推測する。

心に恐怖や不安があるうちは細胞は緊張し続ける。緊張があるうちは宇宙の意識が十分に体流れはしない。チャクラ開発等により、ポンプのパワーアップばかりに努めるとパワーの通り道がパワーについていけず破壊される。比喩すれば1リットルしか入らない容器に力づくで2リットルのものを入れるようなものである。

何もかも宇宙の意識と共に

私は緊張し易い性質だから、アダムスキー氏の教える*弛緩(リラックス)の状態に常に生活できれば、どんなに良いだろう

編集

◎今回は仙合支部報としては初めて久保田先生の記事をいただきました。いつも新しい視点から宇宙哲学の実践法を紹介して下さる先生の新鮮なパワーには驚かされます。お忙しいなかをご寄稿下さった先生には深く御礼申し上げます。

◎前号から始まった連載記事の「大地」は、著者・柴田光明氏のお仕事が大変お忙しいとのこと、今回は休載いたします。そのかわり次号には2回分の重みのある記事をご紹介します。お楽しみに。

◎新入会員の方から「どんなふ

と、あこがれ続けていた。あこがれだけでは絵にかいたモチである。それで昔から色々な方法を試してきた。緊張したと感じた時「リラックス、リラックス」と反覆思念するとか、眠る前に自己暗示のように自分に語りかけるとかしたものだ。

もちろん、それなりの効果はあったと思う。けれども、どういふ訳か長続きしない。心にこびりついている習慣的な緊張はとれない。

最近、開き直った。(心の努力で、緊張するな、リラックスせよ、などと力むのはダメだ。自分は自分であって自分でない。つまり宇宙の意識がすべて自分の体を通じて行っているのだ。意識にすっかり身を委ねたような心境でいればよい。緊張する心さえ意識に委ねてしまおう) こう思うと気の小さい私は心強い。あらゆる行為は意識と共にやっているのだから、恐いものはない。私はここにあつて、ここにあらず、あるのは宇宙の意識である、といった具合である。うまくこの心境になれた時は調子が良い。

なんのことはない。この方法はアダムスキー氏があつちこちで教えてくれているし、久保田先生も「宇宙に自己を没入させなさい」と教えている。

それはそれとして、やはり自分で実践してみないとダメだなど、つくづく思う。

後記

うにして宇宙哲学を勉強して行けばよいか」という質問を時々いただきます。これはアダムスキー氏も『生命の科学』の中に書いている通り、繰り返しテキストを読み、実生活に活用するのが一番だと思います。なお、編者の家庭では、久保田先生のご講義の録音テープ(発売元、小島国弘氏。『Uコン』最終ページ参照)を購入し、それを繰り返し聞くようにしています。妻は料理を作りながら、私は昼寝をしながら、そして二人で食事をしながら聞いていますが、皆様もお試し下さい。(A)

お知らせ

和枝さん東京へ結婚おめでとう

仙合支部創立(1977年7月)以来、仙合支部の美人会員として活躍された角田市の佐藤和枝さんは、4月から東京に移り、新しい環境の中で宇宙哲学を実践しておられる。今夏のエルサレム旅行にも参加なされるとのこと。今後ともがんばりましょう!

二代目山形支部代表を務め、1981年3月より1年間、久保田先生の助手をなさっていた山口緑氏(現在小学校教員)は、初任校で知り合った美人教師・岩崎緑さんと6月17日に結婚された。いつまでもお幸せに! (なんて言わなくても幸せか…)